

3) 日本なし

(1) 防除法(殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した10a当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法	備 考
アブラムシ類	4～7月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ・ユキヤナギアブラムシ、ナシノアブラムシ等 - モベントフロアブル - コルト顆粒水和剤 - サイアノックス水和剤 - スミチオン水和剤40 - スミチオン乳剤 - ダイアジノン水和剤34 - モスピラン顆粒水溶剤 ・ワタアブラムシ、リンゴミドリアブラムシ - モベントフロアブル - アドマイヤー水和剤 - アドマイヤー顆粒水和剤 - コルト顆粒水和剤 - サイハロン水和剤 - テルスター水和剤 - ハチハチフロアブル - モスピラン顆粒水溶剤	
カメムシ類	5～6月 8～9月	○ 飛来成虫を早朝捕殺する。 ○ 成虫発生期に次の薬剤いずれかを散布する。 - アドマイヤー水和剤 - アドマイヤー顆粒水和剤 - サイハロン水和剤 - スミチオン水和剤40 - モスピラン顆粒水溶剤	○ クサギカメムシが優占種である。山沿いの園に多い。
クワコナカイガラムシ	越冬期 (12～3月)	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、被害果袋処理などの園内清掃を行う。 ○ マシン油乳剤または石灰硫黄合剤を散布する。 (「落葉果樹」の項を参照)	
ナシグンバイ	3～9月	○ 幼虫発生初期に次の薬剤いずれかを散布する。 - スミチオン乳剤 - ダイアジノン水和剤34 - デナボン水和剤50 - マイクロデナボン水和剤85	
ナシヒメシンクイ (シンクイムシ類)	越冬期 (12～3月) 6月中旬～ 8月下旬	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、園内清掃を行う。 ○ 幼虫発生期に次の薬剤いずれかを散布する。 - オリオン水和剤40 - サイアノックス水和剤 - サムコルフロアブル10 - スミチオン水和剤40 - スミチオン乳剤 - ダーズバンDF - ダイアジノン水和剤34 - ディアナWDG - フェニックスフロアブル - ヨーバルフロアブル - テッパン液剤 - エクシレルSE	○ スミチオンは早生赤に薬害があるので使用しない。 ○ ダーズバンは7月中旬以降'豊水'の果点荒れを助長するおそれがあるので使用しない。

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法	備 考
ハダニ類	休眠期 発芽前 5月上旬～9月上旬	・リンゴハダニの越冬卵 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アルタベールフロアブル マシン油乳剤（「落葉果樹」の項 参照） 石灰硫黄合剤（「落葉果樹」の項 参照） ・リンゴハダニの発生初期 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 コロマイト水和剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカ水和剤 ダニオーテフロアブル ○ ・ナミハダニ、カンザワハダニの発生初期 次の薬剤いずれかを散布する。 カネマイトフロアブル コテツフロアブル コロマイト水和剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル バロックフロアブル ピラニカ水和剤 マイトコーネフロアブル ダニオーテフロアブル	○ 同一殺ダニ剤の連用はしない。 ○ ダニトロン、サンマイト、ピラニカは眼に入らないようにする。 ○ バロックフロアブルをボルドー体系で使用する場合は、ボルドー液散布と14日以上の間隔をあけて散布する。 ○ マイトコーネフロアブル、ダニゲッターフロアブル、ダニサラバフロアブルをボルドー体系で使用する場合、ボルドー液との間隔を14日以上あけて散布する。 ○ カネマイトフロアブルは満開後30日までは葉に薬害が出るおそれがあるので使用しない。 ○ ナミハダニに対し、サンマイト、ダニトロン、ピラニカ、は効果が劣る事例が多いので注意する。 ○ ダニオーテフロアブルは銅剤との混用や銅剤散布後に本剤を散布することは避ける。また、本剤の散布後に銅剤を散布する場合は10日以上間隔を開ける。
ニセナシ サビダニ	発生初期 (5～7月)	○ ハチハチフロアブルを散布する。	
ハマキムシ 類	越冬期 (12～3月) 4～8月	○ 剪定時には越冬幼虫、卵の除去、粗皮削りを行う。 ○ 若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 オリオン水和剤40 サイアノックス水和剤 スミチオン水和剤40 スミチオン乳剤 ダーズバンDF ダイアジノン水和剤34 デナボン水和剤50 ヨーバルフロアブル テッパン液剤 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 ○（「果樹類」の項 参照）	○ スミチオン、ダーズバンは、薬害のおそれがあるので、落花後1か月間は使用しない。 ○ ダーズバンは7月中旬以降'豊水'の果点荒れを助長するおそれがあるので使用しない。 ○ NAC剤は、5月中は使用しない。 ○ 同一殺虫剤の連用は避ける。